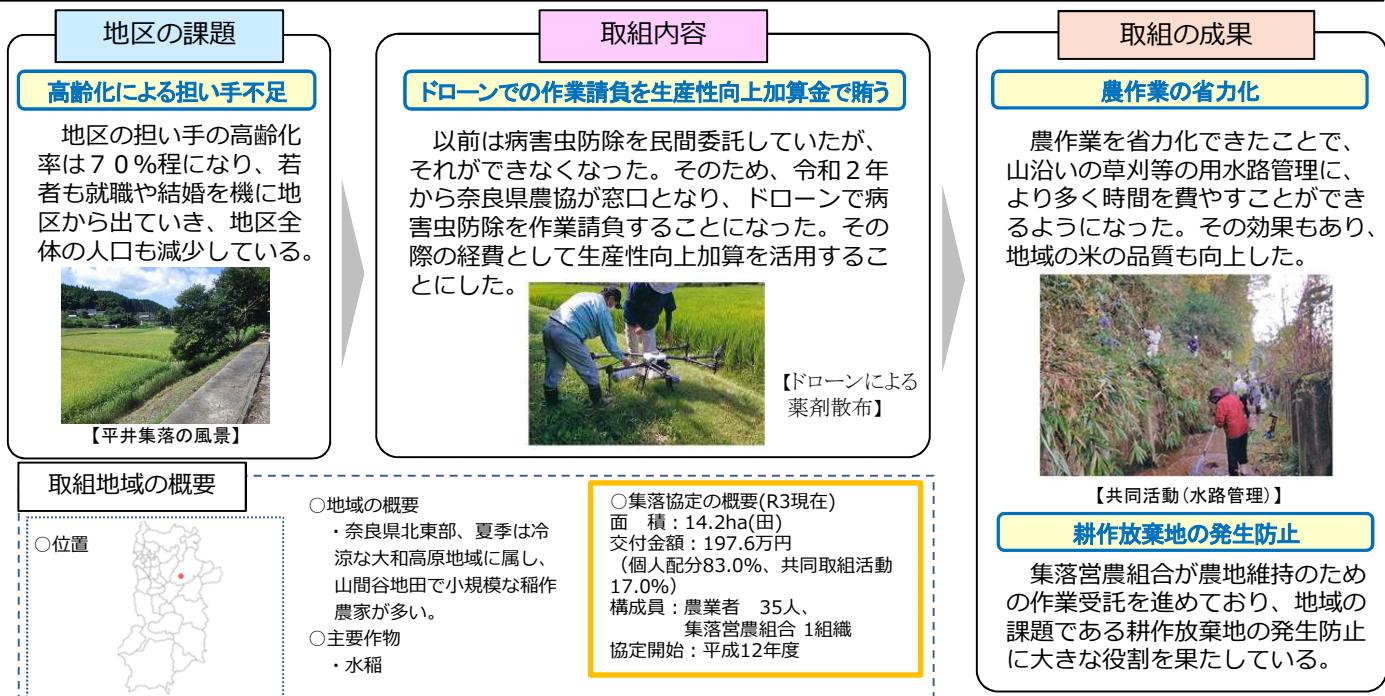


生産性向上加算金を活用して、創意と工夫で地区の農地を守る

- 生産性向上加算金を活用して、ドローンにより病害虫防除の省力化を図る。
- 農地維持のために作業受託を進め、地域の課題である耕作放棄地の発生を未然に防止する。



1 地区の概要

(40年前、不整形な既成田を圃場整備)

——地区の概要を教えてください。

当地区は、奈良県北東部の山間部、宇陀市(旧菟田野町)に位置します。農地面積は14.2ヘクタール、全て水田です。地区の総戸数は50戸、うち農家は35戸です。その全てが兼業農家で、主に土日祝日に農作業をするという状況です。

なお、地区的農地は、昭和60年代に国営総合農地開発事業「大和高原南部」を実施し、農地造成と併せて水田の区画整備を行いました。ほ場や用排水路などの基盤整備が整ったことで、農作業の人手不足を機械化で補って、農地を維持している状況です。



【平井集落の風景】

2 地区の抱える課題

(高齢化により、地域の担い手不足が深刻化)

——地区の課題について教えてください。

他地域と同様に、担い手は高齢化し、若い人は就職や結婚を機に集落から出て行き、地区全体の人口も減ってきてています。高齢化率も70%程になっており、集落営農組合自体が高齢化しているのが現状です。

以前は60歳で定年を迎えたタイミングで、田舎に帰って農業する人も多くいましたが、今後定年が65歳に延長されると、農業に携わる期間が増々短くなり、農業する人もいな



【総会の様子】

くなるのではと危惧しています。また、鳥獣被害も増えていることから、農地や山林を持っていること自体が負担になってきています。

3 取組の経緯

(病害虫防除が課題に！！)

——取組を始めた経緯を教えて下さい。

以前は、病害虫の防除を民間に委託していましたが、作業員が高齢になったことから、作業を頼めなくなりました。どうしようかと考えていましたが、令和2年から奈良農協がドローンで薬剤防除作業を請け負ってくれることになりました。



【地区でのドローン防除の検討】

4 取組の内容、成果

(ドローンによる農作業の省力化)

——どのような取組を行いましたか？

令和2年からは、ドローンによる薬剤防除作業を生産性向上加算金を使って農協に作業委託するようになりました。それによって、以前は2回行っていた防除作業が、1回の散布で済むようになり、防除作業に要する時間を、約60%削減できました。

さらに、農作業を省力化できたことで、山林部分の水路の草刈等の管理作業により多くの時間を費やすことができるようになりました。その効果なのか、地域の米の品質も向上しました。

また、集落営農組合が農地維持のための作業受託を進めており、地域の課題である耕作放棄地の発生の防止に大きな役割を果たしています。



【ドローンによる薬剤散布】

5 集落の今後、他の地域に伝えたいこと

——地区の今後について教えてください。

現在の稻作農家は、米を作ったところで赤字になるだけの状況です。だからと言って、農地を放つておくわけにはいかない。土地を手放したくはない。土地を守り続けてないといけないという思いでがんばっています。

当地域のような中山間地域の米は昼夜の寒暖差が大きく、水が冷たいので美味しい育つが、数量が取れない。にもかかわらず、平地の米と同じような値段でしか買ってもらえない。中山間の米をブランド化させていく方法がわからない。何か良い支援やアイデアはないでしょうか。